

脳神経内科 佐々木 秀直 名誉臨床顧問

北海道大学神経内科教授を定年退職後に着任 函館中央病院の診療の幅を広げる役割に期待



函館中央病院名誉臨床顧問(脳神経内科)

佐々木秀直

今年3月末で北海道大学を定年退職した佐々木秀直医師は、平成15年から同大学医学部神経内科教授を務めてきた(平成29年同大学大学院医学研究科神経病態学分野神経内科学教室に名称変更)。その佐々木医師

が4月から函館中央病院脳神経内科に勤務、同病院名誉臨床顧問に就任した。

南空知の由仁町出身の佐々木医師は「高校時代の興味は飛行機や船、ロケットで、将来はエンジニアとしてこの分野の開発に携わり

たいと漠然と考えて、物理と数学の勉強に取り組んでいました」。進路を変更したのは医学部を勧める担任の熱心な進路指導だった。

北海道大学医学部へ進学。

3年目になり基礎医学の講義が始まると、医師を目指す実感が湧いてきた。「当時の神経学は未知の領域が多く、これから大きく発展する可能性があると感じました」。医師として一生涯専門とする分野であれば多

少とも貢献できるかもしれないと考え、神経内科の道に進むことを決意した。

大学卒業後は筑波大学附属病院で内科系を2年間、神経内科を4年間それぞれ研修した。「チーフレジデントとなつてからは神経変性疾患の神経伝達物質に関する研究で学位を取得。レジデント後は柏市の病院に勤務しながら研究室に通い、アルツハイマー病の神経伝達物質に関する論文をまとめるなど、研究の機会を得たことは幸運でした」。

昭和60年札幌の北祐会神経内科病院に勤務。62年医師として北大病院神経内科に戻り、平成15年神経内科教授に就任した。北大病院神経内科は開設当初より、北海道における神経疾患医療の最後の砦として医療水準の維持に努めてきた。「大学に送れば診断がつくかもしれないという期待を意識しながら、できる限り対応をしてきたつもりです。近年は新しい薬や治療の開発が進み、一部は実用化され始めました。これら最新の医療は大学病院へ導入し、そこで学んだ若い医師によ

り地方へ伝わっていくネットワークと循環が北海道の医療水準を支えています」。函館中央病院脳神経内科の外来診療は月曜・水曜・木曜に紹介患者を中心に予約制で行われている。同病院は脊椎外科の手術件数が年間500件を超えているが、脊椎・脊髄に関しては脳神経内科の疾患も多い。また、研修医も多様な神経疾患を診察できる機会が得られるなど、佐々木医師への期待は大きい。「1人でできることは限られてはいませんが、少しでも地域医療に役立つように努めています」。

ささき ひでなお
昭和53年北海道大学医学部卒業。筑波大学附属病院、柏水会初石病院、北祐会神経内科病院を経て、昭和62年北海道大学医学部附属病院に勤務。平成15年同大学医学部神経内科教授に就任。平成31年函館中央病院脳神経内科勤務、同病院名誉臨床顧問に就任。日本内科学会認定医・指導医、日本神経学会専門医・指導医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医・指導医、日本頭痛学会専門医、日本認知症学会専門医、医学博士、北海道大学名誉教授